

群馬大学 理工学府・生体調節研究所

第22回 生命科学セミナー

共催

群馬大学ファイブバイオプロセス研究会
群馬大学理工学府「化学生物学プロジェクト」
「内分泌・代謝学」共同利用・共同研究拠点
特別運営費交付金「生活習慣病の病態解明と分子標的探索」

平成28年3月25日(金)
理工学部 5号館 4階 5401室

15:00~15:30 大橋 一登 先生

群馬大学 生体調節研究所 テニユアトラック助教

「ヒトミトコンドリア局在性NAD⁺合成酵素の機能とその意義」

NAD⁺は多くの酵素反応に必須の補酵素であるが、ヒトのミトコンドリアではNAD⁺の供給源が不明であった。我々はヒトのミトコンドリアにおけるNAD⁺供給源として、ミトコンドリアに局在する新奇なNAD⁺キナーゼ (MitNADK; NAD⁺合成酵素) を特定した。本講演ではMitNADKの研究背景と意義, 研究内容, および今後の研究展開について述べる。

15:30~16:00 伊藤 司 先生

群馬大学 大学院理工学府 環境創生部門 准教授

「マイクロバブル培養から見える高酸素環境の静菌メカニズム」

高酸素は細菌感染症に対して有効であるとされ、医療分野では高気圧酸素療法 (HBOT) として応用されている。但し、高酸素による静菌メカニズムは活性酸素の毒性以外に詳細は不明である。どのような要素が静菌に関与し、どのように静菌されるのか、大腸菌をモデル微生物とし、独自のマイクロバブル培養を組み合わせたアプローチにより静菌メカニズムをひもとく。

16:00~16:15 休憩

16:15~17:15 佐藤 健 先生

群馬大学 生体調節研究所 細胞構造分野 教授

「モデル動物を用いたメンブレントラフィックの新たな生理機能の発見と

その分子機構の解析」

メンブレントラフィックは、物質の分泌や取り込み、オートファジー等といった細胞内の物質輸送や分解において重要な役割を担っている。本セミナーでは、モデル動物である線虫 *C. elegans* やマウスを用いて明らかとなってきたメンブレントラフィックの新たな生理機能とその分子メカニズムについて紹介したい。

セミナー終了後、情報交換会があります。こちらにも是非ご参加ください。

会費: 2,500円 (大学院生・学部学生は1,500円) 担当: 理工: 行木 (nameki@gunma-u.ac.jp)

生調: 徳永 (ftokunaga@gunma-u.ac.jp)